

復興応援団だより

2017.2/N057
発行元：
一般社団法人
復興応援団
代表：佐野哲史
広報チーム
0226-25-9897

『東北お遍路プロジェクト』 多賀城観光ガイドブックづくり

12月から1月にかけて、多賀城市立図書館で全4回開催された、多賀城観光ガイドブックづくり講座に参加しました。これは、一般社団法人東北お遍路プロジェクトが制作している「東北お遍路ガイドブック」というものです。

東北お遍路プロジェクトと、青森県から福島県まで、東日本大震災で被災した沿岸地域にお遍路の巡礼地を選定するプロジェクトで、2011年9月から始まりました。多くの方々に巡礼地を辿って頂くことで、震災の記憶を後世に語り継ぎ、また各地域の活性化に繋げることを目指しています。

「遊ぶ」の3つの軸に沿って取材し記事にまとめました。私は多賀城駅前にある「味処 食いしん坊」を取材しました。最近では外国の方もよく来られるとお話を伺ったので、記事に盛り込みました。

この多賀城観光ガイドブックの完成は今年3月の予定です。ガイドブックを通じてまちの魅力や歴史に触れ、多賀城市を訪れる人が増えてくれる。関わった私たちに誇りを持ってください。（東北大学 中澤拓也）

末の松山

お遍路の巡礼地として選ばれた「末の松山」は多賀城市八幡にあります。小倉百人一首・清原元輔の「契りきな かたみに袖をしぼりつつ 末の松山 波越さじとは」という歌の歌枕として知られています。「約束しましたよね。涙に濡れた着物の袖を絞りながら。」

末の松山を波が越すなどあり得ないように、私たちの心も決して変わらないうと。という恋の歌として著名です。

東日本大震災では、この末の松山に避難してきた周辺住民の方々の命が救われたという話があります。「波が越すなどありえない」と詠われた歌枕が、それを信じた人々の命を救った、



まさに巡礼地としてふさわしい場所だと思えます。

参加者の感想

「観光ガイドブックライター」の具体的なイメージはありませんでした。たまたま手にしたチラシに面白さを感じて参加しました。通いなれたお店を取材するときは、いつもと勝手の違つてとまどうことも

ありましたが、図書館のスタッフや学生参加者の協力で楽しく活動できました。30年以上住んでいても見過ごしていたまちの魅力も発見できました。（多賀城市在住 女性）

この講座に参加することで多賀城市のことについてより一層知ることができました。多賀城市の史跡を調べたり、お店の取材をしていく中で多賀城市の歴史やまったく知らなかったお店などを知ることができました。末の松山についても、どこにあるか知らなかったのですが実際にその場所に行ったことで、どんな場所か、どの高さまで津波が来たのかを知れてよかったです。（復興応援団学生スタッフ）

復興応援団とは？

私たちは「地元の方々が主役の復興」を目指し、主に南三陸町と多賀城市で活動しています。南三陸町では、地元の人自身が復興のために全国からボランティアを派遣。復興のお手伝いを通じて南三陸町の魅力に触れてもらい、中長期的に復興を支える「ファン」になってもらう取り組みをしています。多賀城市では、2012年4月より「復興応援団だより」を仮設住宅全戸にお届



↑南三陸町で被災地の状況を学ぶ参加者



→多賀城市で復興応援団だよりを配布するスタッフ